

令和8年度 シーカヤック研修会

報告書

目 的: ●シーカヤックの基本的な指導スキルの獲得

●シーカヤックにおける安全に対する理解の醸成

●地域のネットワークの構築

開催日: 令和8年5月25日(月) 13:00~17:00

講 師: グランストリーム 大瀬 志郎氏、大瀬 泰志氏

参加者: 若狭湾青少年自然の家職員6名、びわこ成蹊スポーツ大学1名

内 容: 13:00 受付・事務室集合 趣旨説明、移動

13:30 研修

●機材、用具の装着等のレクチャー

●若狭湾のフィールドについて講話

●漕ぎ方、出艇・帰着の方法等のレクチャー

●曳航方法・沈からの再乗艇の練習

16:00 シャワー、着替え、片付け

16:30 座談会(講師を交えてアフタートーク)

17:00 終了

所 感: ●今回初めて外部の参加者を募って開催したが、1名の参加者があった。普段、若狭湾青少年自然の家(以下、自然の家)で行っている指導内容に対して、外部の参加者と意見交換を行うことでこれまでの指導内容を見直す機会となり、多くの知見を得ることができた。さらに、講師の大瀬氏から教示いただいた安全管理に関わる様々な知見と技術練習は職員のスキルアップに有意義な機会となったと感じる。

●自然の家においては、安全管理を含めたこれまでの指導マニュアルにある「裏付け」(例えば、なぜライフジャケットは下から締めるよう指導しているか)を再確認することができ、今後の指導に深みを持たせ、着実なセーフティートークをすることが期待できる。さらには、体験活動の質の向上にもつながると思われる。

●座談会では、近隣で起きた水難事故についてや、実施判断について、安全管理マニュアルについて講師を交えて話し合うことができ、事故が起こりやすい状況や要因についての新たな知見を得ることができた。

今後の課題: ●今回は一般参加者が1名だけだった。予め、近隣の関係者と開催日の調整を行う必要があった。また、4月中旬以降民間団体は忙しくなり、日の調整が難しいため、秋~冬前、もしくは初春3月に行うことも検討した方がよい。

●若狭湾の活動フィールドを時間をかけて見て回ることができなかったのが、今回行った

内容を午前中に行い、午後からは活動フィールドをシーカヤックで見て回るような1日研修を計画してもよいと感じた。その際には、今回欠けていた綿密な講師との打合せを通して研修内容を決めていく必要がある。

《研修会の様子》



(講師の紹介、機材・用具のレクチャー)



(若狭湾のフィールドについて)



(水慣れの重要性について)



(漕ぎ方について)



(自身の転覆、落水から復帰)



(参加者の転覆、落水の救助)

(本件担当)

国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職 小林

電話 0770-54-3100 E-mail wakasawan-ji@niye.go.jp